

経営部門

群馬県渋川市北橋町

グローバルピッグファーム株式会社

(代表取締役 赤地 勝美)

画期的な組織革新による

家族養豚農家グループの挑戦



和豚もちぶた生産者

グローバルピッグファーム株式会社は、全国の小規模家族経営の養豚農家の出資による協業という形で組織化し、育種、飼料、生産、財務、出荷という養豚産業構造の全過程について、それぞれの専門的組織の設立または活用を図ることにより、大規模企業養豚と競争できる小規模家族養豚のシステムを確立した。このことは、一種のフランチャイズ型農業経営の先駆的なビジネスモデルである。グローバルピッグファーム(株)の経営の特徴と評価される点は以下の通りである。

第1に、グローバルピッグファーム株式会社は、グループ合計で母豚約2万3000頭を飼養し、肥育豚約50万頭を出荷する全国78戸の養豚農家による連携組織であり、種豚、飼料の統一化とブランド豚「和豚もちぶた」としての出荷の一元化を図り、グループとして高い生産性と収益性を実現している点である。

第2に、グループ加入(出資者)の条件として、①法人であること、②財務および生産データを提出すること、③同じ種豚を使用すること、④同じ飼料を使用すること、⑤グローバルピッグファームで一元出荷すること、としていること。

出資者の条件を課す一方、全てのメンバー農場に対して、優良種豚、自家配合飼料の供給、繁殖・生産・経営管理指導を実施しているのが第3点目。

特に、法人化と財務・技術成績などのデータの公開を義務づけているのは、それに基づいて専属獣医師をはじめとした専門家スタッフがコンサルティングを行うためである。このような農家経営のサポート機能を備え、組織全体と

してのブランドである「和豚もちぶた」を生産するとともに、加工品の生産・販売、飼料コストの低減、販売単価の改善を図っている。

第4に、飼料価格の高騰、豚肉価格の低迷により養豚経営が厳しさを増している中、当該経営体は独自の自家配合飼料の利用、独自の豚肉流通システム、生産・経営データの一元管理とそれに係る改良技術等が反映されることで、経営改善が図られている。

第5に、グループ内で所有または培ってきたさまざまな養豚情報、取扱資材情報をホームページ上に公開することで、全国の業界関係者のレベルアップに加え、経営の透明性も高く、地域に豚肉および加工品販売を行う店舗も設立している。また、メンバー農場も年々増加している。

第6に、畜産経営に必須であるふん尿処理のため、たい肥化施設、浄化処理施設の充実を図り、地域住民の同意を得ている。

第7に、「農業経営は家族経営主体が一番理想的」という理念のもと、小規模家族経営の養豚農家がいかに生き残るかという課題に対して、安全・安心・おいしい豚肉の生産から消費までを「協業」で達成しようという姿勢は、生産者、消費者双方の理解で成り立っており、今後の更なる発展が期待される。

このように、グローバルピッグファーム株式会社は、創設時から発展に尽くしてきた赤地代表の資質により、小規模農家が対外競争力をつけ生き残っていくために、共同で経済事業を行うとともに、経営情報の開示により相互の経営能力の向上を図るなど優れたビジネスモデルで、次世代への経営体制の継承が期待される。

活動のようす



▲獣医師によるコンサルティング



▲枝肉カット作業（酒田営業所）



▲ハム工房ぐるーばるでの加工作業



▲飼料自家配工場（福島農場）



▲検査・診断



▲出荷トラック